Will

TOKUSHIMA KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル

同窓生インタビュー

「かわいいから、大好きだから
子どもたちがいずれ自分の足で社会に立っていけることを願って」

保育福祉学科1期生 **大西 崇史さん**

MESSAGE

専門学校 健祥会学園での飛躍
徳島健祥会福祉専門学校 校長 武田 英二 …… 2

世界は変わる、本学も変わる
同窓生諸氏も不断の進化を！
健祥会グループ 理事長 中村 太一 …… 3

同窓会総会・懇親会 …… 6

同窓会4学科講習会 2017 …… 8

＋UPDATE 4学科卒業生近況報告 …… 10

同窓会勉強会報告 …… 12

学校祭 …… 14
connect with everyone! ～いま、この瞬間から～

NEWS …… 15
NEW FACE | 新教員紹介 etc...

2018 MARCH VOL.11



MESSAGE

専門学校 健祥会学園での飛躍

徳島健祥会福祉専門学校

校 長 武田 英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院、高松市民病院、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 徳島健祥会福祉専門学校 校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞

1、校名変更

2018年4月からは、これまでの校名「徳島健祥会福祉専門学校」を改めて「専門学校 健祥会学園」とすることになりました。

本校は、1996年に介護福祉学科が設置され、2000年には理学療法学科および作業療法学科、2009年には保育福祉学科、2015年には保育学科が設置され、これまでに介護福祉士は1458名、理学療法士は569名、作業療法士は 477名、保育士・幼稚園教諭は50名を社会に輩出してきました。この20年間に、日本は少子高齢社会を迎え、人財を育成するためにはさらなる教育の質の向上、教員のレベルアップ、教育環境の改善を図る必要があります。現在、徳島県の高校3年生人口は約6500人ですが、10年後には約5800人になります。このような社会環境のもとでの校名変更は、本校が福祉、医療に加え他分野への展開を含め、さらに発展する決意を表明したものです。

2、教育指針の確立

この2年間を費やして、10年後20年後でも通用する教育のミッション、教育方針、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー等の新たな教育指針を確立しました。この方針に基づき、「教育課程編成委員会」を基盤として企業や専門分野と連携した教育の改善、「学校関係者評価委員会」を設置して保護者や同窓会と連携した教育の改善を図り、2017年11月に文部科学省に対して、「職業実践専門課程」の認定を申請しました。そのうえで、新入生オリエンテーション、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業、TCI（Temperament and Character Inventory）コーチング技術に基づく個別指導、挨拶を徹底する人間力強化、国家試験対策とグループワーク等に取り組んでいます。

近年は学生の教育に、専門職が活躍する現場のニーズを取り入れることが求められています。そのため、企業、職能団体、学術団体、保護者との連携が必要で、同窓会との緊密な協力が必要です。具体的には、社会で活用できる最新技術を習得させるカリキュラム作成が必要です。同窓会員の皆様には、専門職が習得しておくべき最新の知識や技術についてアドバイスをお願いいたします。

3、教員資質の向上

本校では社会の進歩に伴う教員資質の向上として、職能団体や学術団体での活動、大学院での学位取得、行政と連携した専門職としての社会貢献を行っています。具体的な成果としましては、施設入所高齢者の筋肉量を評価できたことで、介護現場の高齢者が転倒したり寝たきりにならないように、科学的介護およびリハビリテーションに活用できるようになりました。解析数はまだまだ不十分ですので、同窓会と連携してさらに信頼できるエビデンスを提示したいと思っています。

新たな「専門学校 健祥会学園」は健祥会グループの学術部門として、また同窓会とはお互いに連携できるプラットホームとして、ともに発展できることを期待しております。





世界は変わる、本学も変わる
同窓生諸氏も不断の進化を！

健祥会グループ

理事長　中村　太一

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年健祥会グループ理事長に就任。また、2016年11月徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員に就任。徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など、多くの国・県・市の審議会や委員会の委員に就任した。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合評議員としてゲートボールの普及にも携わる。

1996年の創立以来20年余、徳島健祥会福祉専門学校では2554名の介護・医療分野、保育・教育分野の専門職たちを世に送り出してきました。介護福祉学科でスタートし、時代の要請に鑑みながら、学科を増設して現在5学科。こうして教育機能を充実させてくることができましたのも、同窓生はじめ関係諸氏のご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

20年の間に本校と同窓生諸氏を取り巻く環境はめまぐるしく変化してきました。超高齢・人口減少時代に持続可能な新しい社会の姿を描くために、わが国では様々な改革が緒に就き始めています。労働人口の減少がすすみ、働き手として女性に期待が集まる中、その活躍を支える専門職として介護職や保育士の処遇改善が図られています。また健康寿命延伸のためにリハビリテーションにも重きが置かれるようになっています。介護・医療現場でのICTの推進により、業務の効率化や職員の負担軽減もすすみつつあります。大学・短期大学、専門学校などの高等教育においても、新学校種である専門職大学・同短期大学や、専門学校での「職業実践専門課程」が設けられるなど、変革の時を迎えています。出生数が2年連続100万人を割り、18歳人口が減少に転じる中、専門学校には、高校生だけに焦点を当てるのではなく、様々な社会のニーズに的確に応え得る態勢が求められています。

こうした時代にあって、徳島健祥会福祉専門学校では、創立20周年を機に、「人々の健康と幸福に資することができる実践力を有し、広く優しい心を持った専門職を養成する」という建学の精神を、再確認のうえ、教育の質の深化、教員の資質の向上、教育環境の充実などの改革をすすめてきました。この改革を加速させ、福祉のみならず、人間を総合的にとらえる学問の府としての新たな歩みを期して、2018年4月、校名を「専門学校 健祥会学園」に改めます。

介護、医療、保育、障がいといった様々な種別の現場直結の教育環境と、教師と学生の絆、在学生への手厚い教育はもちろん、卒後教育への注力といった本校ならではの強みを存分に発揮し、皆さんに、母校として誇りに思っていただける専門学校 健祥会学園であり続けられるよう、未来を見据えた戦略的経営を推進してまいりたいと思います。

同窓会会員諸氏には、本校を専門性の拠り所とし、同窓会を切磋琢磨する場としてどんどん活用していただき、本校を介しての交流と学びをそれぞれのレベルアップにつなげていっていただきたいと念願します。各所での同窓生の皆さんの頑張りを嬉しく、誇らしく思っています。ますますのご活躍を祈念いたします。





大西崇史さん 27歳（保育士）

2012年、徳島健祥会福祉専門学校保育福祉学科卒業。社会福祉法人池田博愛会に就職し、池田町の児童発達支援センターすぎのこに勤務する。2015年、阿波市に同法人が開所した児童発達支援事業所どんぐりに赴任し、現在に至る。12名のスタッフの一員として、2〜6歳の身体・知的・精神障がいのある36名の子どもたちを療育する。

“かわいいから、大好きだから。子どもたちがいずれ自分の足で社会に立っていけることを願って。”

阿波市西部、美馬市にほど近い阿讃の山裾の小高い台地に子どもたちの元気な声が響く。児童発達支援事業所どんぐり。社会福祉法人池田博愛会が運営する発達障がいの子どもたちの通所施設に徳島健祥会福祉専門学校 保育福祉学科1期生 大西崇史さんを訪ねた。

なぜ保育士という道を選んだのですか？

いちばん最初のきっかけは、中学校での仕事体験で子どもと関わったことです。それまで生活のまわりに子どもがいなかったので、初めて、「子どもってかわいい！」と思いました。でもそのときは職業にするという意識はまったくなく、家業が土木の関係だったので、高校は工業科にすすみました。卒業時はちょうど就職難で、思うような就職先がなかったんです。じゃあ、どうしようかと考えたときに、中学時代の体験がよみがえってきて、保育士をめざすことにしました。

徳島健祥会福祉専門学校はいかがでしたか？

すばらしいタイミングで保育福祉学科が新設され、1期生として入学しました。たち上がったばかりの学科なので、まだ学生も少なく、男子2名女子5名、計7名の少人数クラスでした。そのおかげで、とても手厚い指導を受けることができラッキーだったと思います。一生の友といえる友人もできました。先生にも、友人にも恵まれた学校生活でした。

先生方とのつながりの濃さが魅力だときますが

在学中はもちろん、今も先生方とは深く関わっています。仕事上の悩みを相談してアドバイスをもらったり、いい研修があるからと声を掛けていただき、いっしょに参加したりしています。同窓生の勉強会にも参加させてもらっています。卒業後これほどのつながりを育み続けられるってすごいと思います。本当に先生方には感謝し、そして今でも頼りにしています。





取材協力
児童発達支援事業所どんぐり
社会福祉法人池田博愛会
771-1703 阿波市阿波町東長峰151-1

就職先になぜ保育園ではなく、障がい児療育の分野を選んだのですか？

現場実習で、保育園と障がい児入所施設と障がい者入所施設にお世話になりました。障がいがある人に向き合ったのはこのときが初めてでした。

私より年長の入所者さんは、人生においては先輩なのですが、行動面ではずっと幼く、そのぶん純粋で、とても勉強になりました。汚物を顔につけられたり、びっくりするようなこともあり、難しさも痛感しましたが、先生方が入所者さん一人ひとりを大切に尊重していることが本当に素晴らしく思えました。

障がい児についても、保育園とは違った経験でしたが、大変という思いよりも、彼らとの関わりがとても楽しかったんです。心を込めれば心で応えてくれるとでも表現すればいいかな。とにかく、実習を契機に、障がいのある人のお世話を仕事にしよう、保育士の資格を活かして障がい児施設で働こうと決めました。

児童発達支援事業所のことを教えてください

言葉や身体機能など、発達に何らかの障がいや不安がある就学前の子どもたちが、家庭から通所してくる施設です。それぞれの発達状況に応じた早期療育を行うことで、生活する上での不自由をなくし、発達を促すとともに障がいを軽減し、社会的に自立していけるようにサポートします。

健常児の保育と障がい児の療育の一番大きな違いはなんですか？

健常児も障がい児も、みんな一人ひとり違った存在であることに変わりはないので、基本的には同じです。教育支援のための1日のプログラム、季節のプログラムがあり、クラスごとにいろんな活動をするのも同じです。ただ、障がい児については、言葉でのコミュニケーションがとりにくい場合があること、また、発達の状態がバラバラである中でクラスをまとめていくことの難しさを感じます。

具体的にどんな支援をするのですか？

食事、着替え、排泄など、基本的生活習慣を身につけることから始まり、クラスの友だちとの関わりの中で、様々な活動を通して、社会性を学んでいきます。

社会の中で生きていけるようになること、そして地域に戻ることが目的。社会のルールを遊びの中で伝えていきます。でも無理強いはしない。子どもなんだから楽しいことが一番。今できなくても大人になればできることもあるし、ここで集団の中にいるからこそ、自分という存在への気づきも生まれると思います。

この仕事にやりがいを感じるのはどんなときですか？

以前と違って発達障害という言葉もよく知られるようになり、世間の理解も広がっていますが、まだまだ正しい理解には遠く、保護者の方の意識もまちまちです。病気の治療のように、支援事業所に通えば治ると思っている方もいます。何が何でも普通の学校へやりたいと希望する保護者の方もいます。でもそうじゃなく、こうなりたい、これができたらいいなという一つひとつクリアしていくことの大切さを伝えるようにしています。できなかったことができるようになって成長を感じたときや、保護者の方から感謝の言葉をいただいたとき、これに勝る喜びはないですね。

今後の目標、やりたいことを聞かせてください

今、月2回、阿波市の保育所へ訪問支援に出向いています。集団生活に馴染めない子どもたちへの支援を指導しつつ、必要があれば、当事業所の利用につなげたりします。また、作業療法や言語聴覚療法で外部の医療職の先生に訓練に来てもらっていますが、その先生方と連絡を取り合って、医療的な支援をすすめていくこともあります。支援学校との関わりも育んでいます。こうした地域との関わりが増えており、仕事の幅が広がってきていることを感じます。保育福祉学科卒業時に社会福祉士の国家試験受験資格を取得していますから、いずれ挑戦して、ここでの経験をベースに、将来的にはケアワークだけでなくソーシャルワークにも携わりたいと考えています。

子どもたちに向き合う上で大切にしていることは？との最後の問いに、「一番は笑顔」「二番目は、甘やかすのでなく、いけないことはいけないと教え、叱るときは叱る、そしていいことはしっかり褒めてあげること」「三番目は愛情」と、間髪入れず答えが返ってきた。「だから、怒っても『先生好き』って言ってくれます。でもね、『大西先生』と発音できなくて、『おに先生』と呼ぶ子もいます」と笑う大西さん。その笑顔には職業への自信と誇り、子どもたちへの愛情があふれている。

～平成29年度～
徳島健祥会福祉専門学校

同窓会総会

2017/6/4（SUN）
ホテルグランドパレス

同窓生80名の参加のもと、平成29年の同窓会総会が開催されました。
健祥会グループ理事長中村太一、校長武田英二、同窓会長藤原慶治の挨拶に続き、
議事が滞りなく進行。記念講演で「ICF」の第一人者である黒澤貞夫先生の含蓄に富んだお話に耳を傾けたのち、
恒例の4学科講習会で最先端の情報に触れました。懇親会には70名余りが集い、賑やかに楽しい時間を過ごしました。

花形職業めざして、現場からの発信を大切に！

健祥会グループ理事長 中村太一

同窓会総会にあたり、今年もたくさんの皆様にご出席賜りましたことを心よりうれしく思います。また、オープンキャンパスへのご参加、学生募集へのご協力など、日頃よりのお支えにも心より御礼申し上げます。昨年11月、27歳の頃から15年間役員を務めてきました徳島商工会議所の会頭に就任いたしましたことをご報告いたします。若さと、社会福祉法人の理事長という私の持つ「ふたつの特異」を活かして、徳島の産業構造の変化を見据えながら、しっかりと経済の活性化に取り組んでまいる決意です。来年の診療報酬・介護報酬同時改定において、ダウンが懸念される中、今、現場からの発信がとても大切です。そして施設には今、良くも悪くも厳しい目が注がれています。医療介護専門職が花形職業となれるよう、私も他業種のことも勉強しつつ頑張ってまいりますので、皆さんもどうかそれぞれの持ち場で、利用者様に喜ばれるサービスをますます極めていってください。


理事長 中村 太一

「感謝の実践」「知識を知恵に」「やさしい心」で！

校長 武田英二

皆さんの施設での実習で本校学生たちが大変お世話になっていますことに感謝申し上げます。座学を血肉にかえるために、実習は何より大切な学びです。意欲が表にあわられない学生もおりますが、どうぞあたたかな指導をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

本校の最大の特長は、幅広い事業を展開する健祥会グループというバックボーンの存在であり、「感謝の実践」「知識を知恵に」「やさしい心」を3つのミッションに、グループをあげて、人財を大切に育てています。

2019年に「専門職大学」と「専門職短期大学」が創設される運びとなっていますが、本校ではまずは、文部科学大臣認定の「職業実践専門課程」として、教育の水準の維持向上を図ってまいることになります。企業との連携、教員への系統的・継続的な研修なども課題となりますので、同窓会の皆様にはこれまで以上に密な連携とご協力をお願いいたします。


学校長 武田 英二

利用者様第一という理念を守って

同窓会長 藤原慶治

社会保障費の抑制を求める声が強まる中で、来年は診療報酬・介護報酬同時改定の年です。同時に、私たち専門職にはますます高度な技術や知識が必要になります。私たちは、制度の動きに翻弄されることなく、利用者様第一という理念を守って、専門性を向上させながら、情報収集に努め、柔軟に対応していかねばなりません。同窓会としても、会員の皆様に資するよう、研修会など、さまざまな企画を立案・実施し、さらに活発な活動を展開してまいりたいと考えます。


同窓会長 藤原 慶治

楽しんで！





記念講演

「現代社会におけるＩＣＦの役割と機能」（抜粋・要約）

黒澤貞夫先生　（群馬医療福祉大学大学院特任教授　日本生活支援学会会長）

「ICF」とはWHOが定めた国際障害分類である。健康状態・心身構造・活動と参加などに分類されている。障害とは社会（国家）が作り出した概念であり、不自由であるということをどう捉えるかは、社会のありように左右される。人は誰しも何らかの社会的役割を持ち、社会に参加している。障害があってもできることの方がはるかに多く、治療も大切だが、生活機能をいかに高めるかが重要である。治療には限界があるが、ケアは、日常生活と人生の支えであり、限界はない。体の動かない場合も精神は動く、そのために何をなすべきか、ケアの質をどう高めるか・・・多職種の多面的な意見をまとめるためには相当な専門性が必要となる。

古くから社会には「助け合い」があり、自助・互助・共助が機能していた。さらに、社会構造や家族構造が変化する中、国家が面倒を見るという考え方として公助がある。福祉は文化であり、福祉の内容は国家の文化的な尺度として捉えることができる。

福祉とは生活の支援である。支援とは支え合いである。決して一方通行でなく、支え手の人生も豊かにしてくれるものである。入浴排泄食事の支援は必要条件であるが、それだけでは人は生きていけない、人生は何だったのかを問いながら、十分条件を満たしてあげる手伝いができるかどうかが重要。人間らしくその人らしく支えなければならない。その人らしくとは何なのか、それは永遠の課題。残る人生をどう生きるか、それはどう死ぬかということでもある。最後には十分に生きたと思えることが大事。

私たちの中にある助け合いの意識や文化を大切にしながら、新しい時代の助け合いの姿や福祉の文化をつくっていかねばならない。





懇親会
Photo Gallery

久々の顔を見つけて盛り上がったり、
懐かしい先生方に近況報告したり、
賑やかで心和むひとときを過ごしました。

賑やかに、心和むひとときを







同窓会4学科講習会

現場からの貴重な報告に耳を傾けて

■介護福祉学科

あなたの笑顔が見られるまで
～新たな在宅復帰の可能性～



講師 **祖父江 敦** さん

介護福祉学科 10 期生
老人保健施設 健祥会ハート

入所時、活動性も栄養値も低く、褥瘡があり認知症も進み、外出すら無理との思い込みにより、在宅復帰者リストから外れていた利用者様。作業療法士とともに座り替えや体位交換、おむつ交換を工夫し、看護師との協働で褥瘡ケアに取り組むうち、改善が見られ、認知面でも長期記憶が確認できました。そこで、多職種とご家族参加のカンファレンスを行い、配偶者様の入居するグループホームへの在宅復帰をめざしてリハビリを実施。結果、ついに配偶者様に会いに行くことができるまでになりました。私たち次第で在宅復帰を遠ざけてしまうこともあれば、実現もできるんだということを痛感し、大きな意識改革になりました。老健本来の在宅復帰の役割を果たすため、意識を高く持って介護力を上げていきたいものです。

重度化する利用者に笑顔を
～幼老統合ケア 小さな子どもたちの大きな力～



講師 **山根 正大** さん

介護福祉学科 15 期生
グループホーム若宮の里　管理者

グループホームにおける幼老統合ケアで、利用者様は、園児の誘いに笑顔で応じて楽しそうにレクに参加したり、すすんで紙芝居を読んでくださったり、生活における快の刺激が確実に増えました。さらに、園児の危険な行動を注意してくださったり、園児との関わりを通じて他の利用者様との交流も盛んになりました。普段の利用者様は「ケアの受け手」ですが、小さな子どもたちとのふれ合いの場では、自らの子育て経験から「教育者」としての一面をのぞかせます。子どもの面倒を見ることが生きがいや自己肯定感となり、生活意欲の向上に繋がっていることは明らかです。園児たちにとっても、高齢者への思いやりの心が育まれ、人間関係構築力が培われたようです。施設連携の視点では、両施設の職員同士の会話も増え、情報交換が密になりました。利用者様をとりまく環境を整備・活用するのは人的環境と呼ばれる我々職員です。今後も職員同士がお互いを支え合い、高め合い、連携し、サービスの品質の向上を図っていきたいです。

■保育福祉学科・保育学科

現場におけるメンタルヘルスについて



講師 **森 隆子** さん

臨床心理士
徳島健祥会福祉専門学校非常勤講師

よく私たちは「ストレスがきつい」「ストレスを発散したい」などと話すことがありますが、一体ストレスとはどういうものなのでしょうか。

ストレスとは、不快な刺激を受けたときの心身の反応のことであり、ストレスの元となるものをストレッサーといいます。ストレッサーに遭遇すると、恐怖や不安を感じることでストレスホルモンが分泌され、自律神経の興奮や心拍数の増加、血圧上昇が起こります。

ストレッサーは生活環境、心理性、外傷性の概ね3つに分類することができます。生活環境ストレッサーでは、日常生活のほとんどすべての事柄、死別、喪失はもちろん、結婚や昇格までその原因となることがあります。外傷性には、自然災害や暑さ寒さも含まれます。現代人はこうした多くのストレスに晒されています。ストレスが重なると、「キラーストレス」ともいうべき危険な状態に陥り、心不全やがん、脳卒中、心筋梗塞、大動脈破裂などを引き起こす可能性があることがわかってきました。

私たちの保育現場での悩みや不安は、①職場の人間関係 ②精神的ストレス ③保育内容 ④身体的ストレス ⑤保護者対応などが挙げられます。こうしたストレスの解消法として有効なのは、①ストレスの原因を避ける ②週3回程度の運動 ③笑う！ ④一人で抱え込まないでサポートを得る ⑤マインドフルネスで乗り越えるなどがあります。

最後に、対人職に効くリラクゼーションとして「タッピングタッチ技法」を紹介します。二人一組になり、ゆったりとしたペースで相手の背中を軽く叩いたり、手のひら全体でさすったりすることで、ホリスティック（統合的）なケアが得られるというものです。人の手のぬくもりは良いものです。家庭でも、夫婦・親子のコミュニケーションのひとつとして実践してみてください。

■理学療法学科

治せる認知症特発性正常圧水頭症 ～治療とリハビリテーション～



講師 **板東 正記** さん

理学療法学科５期生
徳島健祥会福祉専門学校教員

特発性正常圧水頭症（以下ｉＮＰＨ）は先行疾患を認めない歩行障害、認知障害、排尿障害の3兆候をきたす疾患です。原因機序は不明ですが、髄液吸収障害に起因した病態であり、近年、介入により改善の可能性があることが分かってきています。高齢者に多く発症することから今までは、加齢による認知症変化やパーキンソン病として見過ごされていましたが、「治せる認知症」として注目が集まっています。

診断は、臨床症状に加え、特徴的な画像所見と、髄液排除試験による改善を認めるか否かで下されます。この効果判定は歩行障害に対しては Timed Up and Go test、認知機能に対しては Mini Mental State Examination が用いられ、主に理学療法士や作業療法士が評価を実施しています。診断や治療効果判定、治療方針の決定に理学療法士や作業療法士の専門性が必要とされているのです。

手術適応があると判断されれば、髄液の流れを改善させる髄液シャント術を実施します。適切な診断と治療により、歩行障害は約90％、認知症症状は80％、尿失禁は70％程度の改善が見込めます。髄液シャント術後においても理学療法士や作業療法士が介入し、身体機能の改善に努めます。主にはｉＮＰＨに特徴的な歩行障害（歩幅の減少、足の挙上低下、開脚歩行）の改善を図り、転倒を予防し活動範囲を拡大していきます。認知症症状に関しては前頭葉機能障害の改善を図り、意欲や精神運動速度、作動記憶を向上させます。また、術後リハビリテーションの継続が、術後成績に大きく関与することが分かっています。研究においても、術後6ヵ月の段階で、リハビリテーション介入群と非介入群では歩行能力に有意な差を認めており、理学療法士や作業療法士の継続的な介入が欠かせません。

２０２５年には７００万人を超えるとされている認知症患者に対して、ｉＮＰＨの適切な診断と治療、リハビリテーションの実践は非常に有益であると考えられます。この病態の認知度と理解が進み、多くの認知症で苦しむ患者さんやそのご家族の救いとなれば幸いです。

■作業療法学科

回復期リハビリテーション病棟に求められるもの



講師 **佐尾山 諭** さん

作業療法学科４期生
きたじま田岡病院

平成28年度診療報酬改定により、入院期間の短縮とＦＩＭ利得がさらに求められるようになりましたが、結果だけに捉われず、患者様・家族様に応えられるよう、回復期リハビリテーション病棟としての役割を果たしていきたいです。

地域包括ケア病棟における作業療法の役割

～医療からみた地域包括ケアシステム～



講師 **柳本 麻里** さん

作業療法学科５期生
徳島平成病院

地域包括ケア病棟でチャレンジしていることや日々の思いについてお話ししました。退院後の生活支援や社会参加支援の難しさなど、臨床の場で同じような思いや悩みを持つもの同士、共感し合うとともに、懐かしい顔ぶれと貴重な交流の時間が過ごせました。

訪問看護ステーションでの作業療法の役割



講師 **松村 幸治** さん

作業療法学科５期生
訪問看護ステーションはーと

実際のリハビリ場面などを交えながら、利用者様に対してどのような考えで関わらせていただいているかを報告しました。日頃行っていることを発表するということで緊張もしましたが、少しでも母校への恩返しになればと思いお話ししました。



笑顔で安心できる生活のために

櫻井 祥子 さん　介護福祉学科17期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会　グループホーム濃姫

2014年に専門学校卒業後、グループホーム濃姫へ配属となり、早4年が過ぎました。就職したての頃は、入居者様への対応で毎日何度も悩み、介護職としてやっていけるのかと不安になることもありました。けれど、その場その場で先輩職員の対応を見て学び、指導いただき、様々なことを学び知っていきました。周りの皆様の支えのおかげで、少しずつ自信もつき、任せていただける仕事も増えました。今では介護計画作成担当者として、介護計画の作成も担えるようになりました。

毎日毎日暮らしをともにしていても、入居者様お一人おひとりを深く理解することはとても難しく、何を望んでいらっしゃるのか、悩むこともあります。しかし、職員間で協力し合い、しっかり情報を共有することで、お一人おひとりの目標を設定し、その目標達成のために今何が必要なのかを考え支援しています。そして、今までできなかったことができたとき、入居者様が心から笑顔になってくださり、とても嬉しく感じています。

年数が経つごとに、気持ちの面で余裕も生まれ、介護のやりがいや奥深さを実感しています。もちろん楽しいことばかりではなく、苦しいことや辛いこともたくさんありましたが、入居者様の笑顔や、「ありがとう」「助かった」「また頼みます」など、たくさんの優しい言葉から元気をいただき、続けてくることができました。

「大変な職業」というイメージの介護職ですが、人と人との繋がりの嬉しさを実感できる素晴らしい職業です。まだまだ勉強不足で、周りの職員に支えられる場面もたくさんありますが、初心を忘れず前へ向かって、日々進んでいきたいと思います。そして入居者様はもちろん、家族様にもここに来て良かったと、思ってもらえるサービスをつくっていきたいです。



+UPDATE

それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



成長をすぐそばで見守る喜び

岩原 実咲 さん　保育福祉学科 5期生

勤務先　社会福祉法人 助任福祉会　助任なかよし認定こども園

卒業後、助任なかよし認定こども園に就職して早2年が過ぎました。1年目は2歳児クラス、2年目は4歳児クラスを担任しました。子どもたちが毎日笑顔で登園できるよう、遊びや活動を考え、工夫するとともに、発達や月齢に応じた関わり方や声かけができるよう、試行錯誤しながら子どもたちに向き合っています。

保育教諭としてはまだまだ未熟な私ですが、園長先生はじめ、主任や先輩の先生方の動きを見て真似たり、子どもとの関わり方、保護者の方への支援の仕方について助言や指導をいただいたりしながら、また、同期の仲間とも励まし合いながら頑張っています。

私はこの2年間でいろいろな園の行事を体験し、自分自身も大きく成長できたと思っています。一番心に残っているのが今年の運動会です。4歳児クラスはバルーンを使ったダンスをしました。はじめてクラス全員で取り組んだ種目です。子どもたちは、最初は友だちの動きや音楽にうまく合わせることができず、私自身伝える難しさを痛感しました。しかし、練習するにつれ、だんだん上手になり、運動会本番では、全員が格好良く決めることができました。あいにくの雨でしたが、子どもたちはもちろん、私自身も大きな達成感や満足感を味わうことができ、大きな自信につながりました。

保育教諭の業務は保育教材の事前準備や事務仕事など直接の保育以外の仕事もたくさんありますが、子どもたちの笑顔に支えられ、元気をもらいながら、その成長をすぐそばで見ることのできる素晴らしい仕事、やりがいのある仕事です。ずいぶん先の話ですが、担任した子どもたちが卒園し、いつか、成長した姿で園に遊びに来てくれる日を楽しみにしています。





「好きなこと」を仕事に

松本 真巳 さん　理学療法学科8期生

勤務先　医療法人 徳寿会　鴨島病院

2010年に徳島健祥会福祉専門学校を卒業。鴨島病院へ入職しました。小学校から高校まで、約11年間野球をしていましたので、理学療法士としてスポーツに携わることが希望でしたから、さっそく徳島県トレーナー協会に所属し、2016年に日本体育協会公認アスレティックトレーナー資格を取得しました。現在は徳島県トレーナー協会の理事を務めています。
病院での勤務時間外には、トレーナーとしてスポーツ現場、主に野球競技でサポート活動を行っています。トレーナー協会としては、徳島県高等学校野球大会のトレーナーブースで活動したり、野球検診での傷害予防に努めています。個人的にも、少年野球の監督、中学校硬式野球チームのトレーニングコーチ、高等学校硬式野球部のトレーナーなどを務め、幅広い立場で経験を重ねることができています。
スポーツ現場での理学療法士の役割は、指導者や医師などの協力のもと、選手の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害などの応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングなどを担います。特に、各競技大会に向けて最大限のパフォーマンスが発揮できるよう、傷害を予防することはとても大切な役割です。
帯同する高等学校硬式野球部は、徳島県大会を勝ち上がり全国高等学校選手権大会に出場。トレーナーとして貴重な体験ができています。大会期間中は、選手の身体機能面だけでなく、精神面の影響や試合中のパフォーマンスを観察し、小さな変化も捉え、状況を判断し、コンディショニングに活かすことが求められます。そのためには選手だけでなく監督やコーチとのコミュニケーションが重要です。「負ければ終わり」のスポーツ現場での活動を通して、勝負の世界の厳しさを身をもって感じています。結果が求められる病院現場での業務も厳しさはそれ以上ですが、好きな野球に携わることができるおかげで、仕事にも意欲的に取り組むことができています。トレーナー活動は自分自身の在り方を見詰める機会となっており、目標達成のためには「如何に自分に厳しく努めることができるか」が問われているということを学ばせてもらっています。





地域の中の作業療法

西山 修平 さん　作業療法学科３期生

勤務先　社会医療法人 凌雲会　老人保健施設 昴

作業療法士として12年目が経過した今、私が新人の頃とは世の中も大きく変わったように思います。超高齢社会にあって、必要とされるリハビリテーションの本質は変わりませんが、進化が必要だと思い、研鑽に努めながら、業務に励んでいます。
現在勤務する法人は、約60名のリハスタッフが、回復期、強化型老健、通所（通所リハ・通所介護）、訪問リハ、障がいなどのセクションでリハビリテーションを行っています。
その中でリハビリテーション部課長兼通所統括課長として、主に後輩育成や管理業務を担っています。また鳴門市長寿介護課の嘱託職員としても勤務しており、民間と行政という双方の立場で作業療法士として地域リハビリテーションや高齢者リハビリテーションのあり方を展望しています。
私が仕事上のモットーにしているのは、「家で生きる」「自分の居場所がある」というあたりまえの生活。これを念頭におき、業務や地域で人と関わりながら、現場でのニーズを拾い、また研修やメディアなどで情報を収集し、今、自分にできることは何なのかを常に考えています。そして、「雨垂れ石を穿つ」の言葉のように、小さな努力でも根気よく続けてやれば最後には成功すると信じて、先を見据えたリハビリテーションやアドバイスができるように心がけています。
自分に足りないものはまだまだ沢山あり、様々な方に支えられながらの毎日。患者様や利用者様から「できるようになった」との喜びの声をいただくたび、この職業に就いてよかったと実感しています。



同窓会勉強会報告

「卒業後も勉強や語り合いの場がほしい」との声を受けてスタートした同窓会勉強会。
今年度は保育福祉学科、理学療法学科、作業療法学科で実施されました。

保育福祉学科

2017年11月11日(土)　16:30〜18:30

同窓生の近況報告(情報共有)

●参加:6名

今年度初めての同窓会勉強会では、まず、自己紹介と近況報告、情報交換を行いました。続いて、実習生の受け入れについての質問があり、各施設の現状や指導方法について紹介。さらに、自分たちの実習を振り返り、どうしてほしかったかなど話し合い、活発に意見が交換されました。来年度からは保育福祉学科と保育学科(1期生)双方が参加することになるため、両学科とのつながりを深めていきたいとの意見が出され、次回は在校生にも声をかけ、勉強会への参加を勧めていくことになりました。

2018年2月8日(木)　18:30〜20:30

児童養護施設での仕事内容

〜支援の在り方・退所後のケア等について〜

●講師:西岡 祐也さん(徳島児童ホーム)
保育福祉学科5期生

●参加:15名

前回の勉強会で、児童養護施設の業務内容について学びたいとの要望がありました。そこで卒業後、児童養護施設に就職し、2年目を終える5期生の西岡さんより、支援の在り方、退所後のケアについてなど詳しく説明していただきました。参加者にとって学びの多い勉強会となりました。

理学療法学科

2017年11月15日(水)　19:00〜20:30

糖尿病に対する理学療法の捉え方

●講師:石黒 友康さん(東都医療大学理学療法学科開設準備室)
本校非常勤講師

●参加:23名

糖尿病に対する理学療法について、全国的に活躍されている石黒先生を講師に迎え、理学療法士にとって必要な糖尿病に対する基礎的知識から応用的内容まで、ポイントとなる部分を熱心にご講義いただきました。今注目されている、内部障害系理学療法についてトップレベルの内容を学べる貴重な機会でした。久しぶりに来校した同窓生は、学校の設備が良くなっていることに驚きつつ、懐かしい同級生との旧交を温め、会話を弾ませていました。

作業療法学科

2017年11月9日(木)　19:00〜20:30

職業リハビリについて

●講師:大前 博司さん(兼松病院)
作業療法学科9期生

●参加:10名

作業療法学科9期卒業生は卒業後も自己研鑽に努めようと、定期的に勉強会を行っています。今回は職業リハビリテーションの事例検討を通して意見を交換し、見識を深めました。また、9期生が学生時代にお世話になった先生が勉強会に参加してくださいました。今は県外で活躍されており、久しぶりの再会。なごやかに近況報告をしました。



専門職として常に進化し続けるために！「学び」を支える同窓会でありたい

卒業生がナビゲーター
一日CAMPUS見学会
2017年7月29日(土)

各学科卒業生がナビゲーターとなってオープンキャンパスを開催、4学科ごとに学科紹介＆体験が行なわれました。

■介護福祉学科　開催場所:1号館食堂

【ナビゲーター】
大西 哉美さん(16期生)　サービス付き高齢者向け住宅 春水
大舘 希望さん(16期生)　特別養護老人ホーム 水明荘
河野 和代先生(教員)
佐々木 よし美先生(教員)

●学科体験
「高齢者疑似体験」

同窓生の大西さん、大舘さんが、「学生時代の思い出は？」「介護をめざした理由は？」「介護の仕事で感じる喜びややりがいは？」という項目を、それぞれの体験に基づいて紹介。学校で学んだことが介護現場でどう活かされているかという貴重なお話をとても楽しく披露してくださいました。
高齢者疑似体験では、自動販売機で飲み物を買うという動作に悪戦苦闘するなか、現役介護福祉士の適切な声掛けや介助の力を体験していただけたと思います。
参加者と同窓生との会話も盛り上がり、とても楽しいオープンキャンパスとなりました。




■保育学科　開催場所:1号館　保育学科1年生教室

【ナビゲーター】
大西 菜々(2期生)とくしま健祥会保育園
坂井 このみ(3期生)ニチイキッズあいずみ北保育園

●学科体験
手遊び・小麦粉粘土・片栗粉粘土・エプロンシアターなど

2期生と3期生の学生が講師となり、保育園や幼稚園で行なわれている、粘土細工やエプロンシアターを体験していただきました。
参加者は、幼少期を思い出しながら、粘土ができるまでの感触や過程を楽しんだり、同窓生手作りのエプロンシアターを見たり、演じたり。体験を通して、保育の楽しさやおもしろさ、難しさを実感するとともに、保育への関心も深まったようでした。体験後は自分たちで作った粘土細工を記念に持ち帰っていただきました。




■理学療法学科　開催場所:本館　機能訓練室

【ナビゲーター】
加藤志帆さん(5期生)NPO法人　あかねの和
徳元義治さん(8期生)医療法人　橋本病院
竹内瑞貴さん(11期生)国立研究開発法人国立精神神経医療研究センター

●学科体験
講義
・「子どもの理学療法」・・・加藤志帆さん
・「理学療法士になってみませんか？」・・・徳元義治さん
・「理学療法士ができること ～神経難病のリハビリテーション」・・・竹内瑞貴さん

県内外で活躍する同窓生3名が、子ども・高齢者・難病の方への理学療法についてお話しました。それぞれの現場での活動についてのわかりやすい説明と、体を動かしての体験で、参加者は理学療法士の仕事について具体的にイメージできたようでした。




■作業療法学科　開催場所:本館1階木工金工室・3階エスポワール

【ナビゲーター】
長谷部有哉(5期)小松島リハビリテーションクリニック
寺橋　絵里(11期)通所リハビリテーション眉山のマホロバ
森　　未奈(11期)眉山病院

●学科体験
・作業療法士の仕事の様子
・質問コーナー
・革細工でコースター作り

病院や通所リハビリテーションでの作業療法士の仕事について、患者様とのリハビリ場面の写真を使って、わかりやすく説明していただきました。作業の大切さを話しながら、革細工に挑戦。世界に一つだけのコースター作りを楽しみ、高校生の皆さんは作業療法の効果についても理解を深めてくれたようでした。




School Festival
TOPICS
- 学校祭 -

connect with everyone!
～いま、この瞬間から～

第22回 徳島健祥会福祉専門学校 学校祭





学校生活の中で最も学生の思い出に残る行事の一つ、学校祭。
医療・福祉の道をめざす高校生の皆さんや地域の皆さんに
学校の教育活動を広く知っていただくために、
今年も学生たちの企画運営により、開催されました。

今年は、季節外れの台風の影響で、1日半の実施となりましたが、学生たちは雨にも負けず風にも負けず、テーマである『繋がる』を胸に、各学科の学習内容や成果を紹介。アトラクションや模擬店、スーパーライブに、文化講演会に、ご高齢者様から子どもたちまで多くの地域の皆様が訪れて楽しんでくださいました。オープンキャンパスも同時開催。2018年4月の「専門学校 健祥会学園」への校名変更を控え、「徳島健祥会福祉専門学校」として最後の学校祭でした。



■SUPER LIVE
K
10月28日(土)

ソウル出身のJ-POPシンガーソングライター「K」
2005年「1リットルの涙」の主題歌「Only Human」が大ヒット。2009年、外国籍のアーティストとしては史上初となる47都道府県ツアー、2010年には自身初となる日本武道館公演を敢行し、圧倒的なライブパフォーマンスで高い支持を集めています。2017年6月14日にリリースされたニューシングル「桐箪笥のうた」をはじめ、数々のヒットソングを披露していただき、会場が優しさの渦に包まれました。

オープニングアクト
徳島県出身 天使の歌声ユニット「とこまる」
床櫻なつ美さん15歳、丸山純奈さん13歳のユニットがオープニングアクトをつとめ、希望に溢れた明るい歌声と大人顔負けの歌唱力で聴衆を圧倒しました。

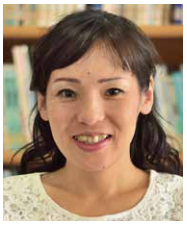



■文化講演会
講師　かんのめぐみ さん
10月29日(日)

介護職として現場で出会ったご高齢者の言葉や歴史に触発されて歌を作り歌う、介護シンガーソングライターかんのめぐみさんが登場。「私の介護のカタチ」と題して、専門学校の教員や学生とのトークショー形式で介護への思いや歌の力についてお話くださるとともに、これから福祉・医療の専門職をめざす学生たちへのエールをいただきました。ミニライブでは介護現場から生まれた曲も披露していただき、学生たちは、身近な環境から生まれたあたたかな歌に共感を覚えながら聞き入りました。







介護福祉学科

河野 和代

介護福祉士は、生活を科学的に考え支える実践者です。利用者様の生活を支えるためには、食事、入浴、排せつなどを支援するだけではなく、その人の過去、現在、未来を考え、幅広い視点に立って介護を展開することが重要です。また、実践のための技術、その根拠となる知識、そして豊かな感性や利用者様の価値観の理解も必要になります。

本校は、近隣にグループの高齢者施設や事業所がたくさんあり、介護の現場と直結しています。こうした恵まれた教育環境の中で、コミュニケーションを図りながら、よりよい介護の在り方を考えていきましょう。



介護福祉学科

佐々木 よし美

日常生活において何らかの介助が必要な人々に対して、その人の有する能力に応じた生活を営むことができるように支援することが介護福祉士の仕事です。そして、質の高い介護を提供するためには、専門的知識・技術に加え、コミュニケーション力や幅広い教養が必要となります。

本学は、同じグループ内に様々な種別の施設が数多くあり、現場直結の充実した教育環境が整っています。グループ内施設すべてが学びのフィールドです。教育方針である礼儀と感謝の心を身につけ、信頼される専門職をめざして一緒に学びましょう。



介護福祉学科

細田 章

今までは生物学の研究と高校の理科教員をしてきたので、介護の分野は初めてです。研究で培った論理的かつ根拠のあるアプローチ方法や、高校教員として実践してきた興味を引き出す指導を最大限に駆使して、身につく授業をしていきたいと思います。また、対人援助に不可欠な、他人と上手にかかわることができる豊かな人間力を養う教育にも力を入れていくつもりです。よろしくお願いします。



作業療法学科

井手 法子

平成 15 年に作業療法士の資格を取得後、JA徳島厚生連 阿南共栄病院に入職。作業療法部門の開設と回復期リハビリテーション病棟の新設に携わり、急性期と回復期の現場で 14 年間の臨床経験を積んできました。プライベートでは、小学生と保育園児の 2 児の母親として、忙しいながらも充実した毎日を送っています。

病院勤務時には、実習指導者として若い実習生と関わる中で、伝えることの難しさを常々感じていました。また、だんだんと学生の想いに鈍感になっていることに気づき、臨床実習の在り方に悩みを持っていました。

そんな私が、この度ご縁に恵まれ、本校の教員としてお世話になることになりました。作業療法士として、命を支え、人生を共に見つめる仕事から、人生の成熟過程に関わる仕事への大きな転換です。戸惑いながら、また、教育の難しさを感じながらの 1 年でしたが、有難いことに周囲の方々にサポートいただき、やりがいを感じられるようになってきました。

本校を卒業していく学生に、素敵な作業療法士人生を歩んでもらえるよう、学生と共に成長しながら頑張っていきます！



保育学科

山地 貴子

1 年間、本校の非常勤勤務をさせていただいた後、2017 年度から常勤教員として勤めさせていただいています。保育士という職業は、今、需要の高まりにより、注目を集めています。保育園や施設での現場経験を活かし、志をもった学生の皆さんに保育や福祉の専門性や楽しさ、やりがいをわかりやすく伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。





理学療法学科

板東 正記

平成 29 年 4 月より理学療法学科教員として勤務させていただいております。本校理学療法学科を 5 期生として卒業し、香川大学医学部附属病院にて 10 年間勤務しておりました。この度母校へ戻ってくることができ、大変嬉しく、また懐かしい気持ちでいっぱいです。これから出会う学生の皆さんとは教員と生徒の間柄ですが、いち先輩・後輩としての関係も築きながら、私の 10 年間の臨床経験や、本校で学んだこと、卒業してから思うことなどもしっかりと伝えていければと思います。そして、私が在学中に恩師の先生方から熱い指導を受けたように、皆さんへも情熱を持って接してまいります。これから皆さんの理学療法士への夢を全力でサポートしていきますのでよろしくお願いいたします。

命に向き合う現場から、
学生の人生に向き合う現場へ

平成29年度 徳島健祥会福祉専門学校 同窓会総会報告

平成29年度の同窓会総会、講演会、4学科講習会が、ホテルグランドパレスで開催されました。総会では、●平成28年度の事業報告・会計報告 ●平成29年度会計予算（案）・事業計画（案） ●役員改選が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

■徳島健祥会福祉専門学校同窓会役員

役　名	氏　　名
会　長	藤原 慶治（介護1期）
副会長	池村 健（理学3期）、大前 博司（作業9期）、武田 英二（校長）
幹　事	長谷部有哉（作業 5 期）、竹内 大介（理学 1期）、乾 静香（介護14期）、多田 裕介（保育 1期）、渡部 寛生（理学11期）、武市 薫（作業 9期）
会　計	加藤 志帆（理学 5期）、木下 雄二（介護 7期）
監　事	石井 嘉一（介護 4 期）、坂井 このみ（保育 3 期）、船戸 毅（介護 7 期）、荒岡 優（介護14期）

編集後記

徳島健祥会福祉専門学校は、2018年4月、専門学校 健祥会学園へと生まれ変わります。新しいロゴマークは、超高齢化と人口減少という時代の困難に立ち向かい、社会の「盾」になる人財を育成するという決意を込めて、「盾（shield:シールド）」にKとGのイニシャルがデザインされています。様々な社会のニーズに的確に応え得る態勢とより高い専門性を追求するために進化する母校と、より緊密な協力関係を構築し、その進化に乗り遅れないよう、私たち同窓生も切磋琢磨してまいりましょう。徳島健祥会福祉専門学校としては最後となる同窓会会報Will vol.11、制作にあたりご協力をいただきました皆様方に心より感謝申しあげます。

事務局

専門学校
健祥会学園

社会福祉法人 健祥会
徳島健祥会福祉専門学校

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル

発行元　徳島健祥会福祉専門学校同窓会　　発行日　2018 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪　　TEL088-642-9666

不許複製